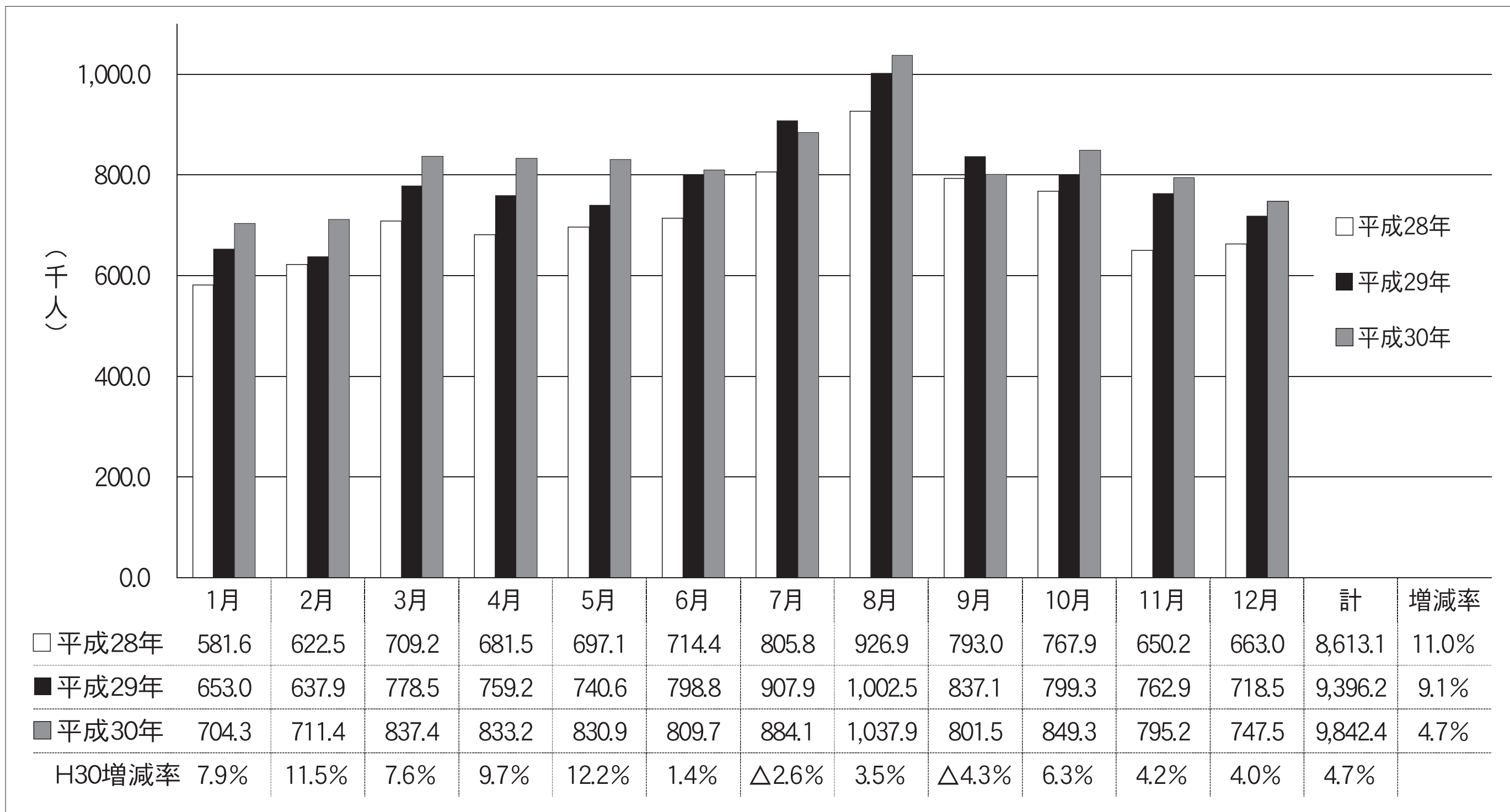


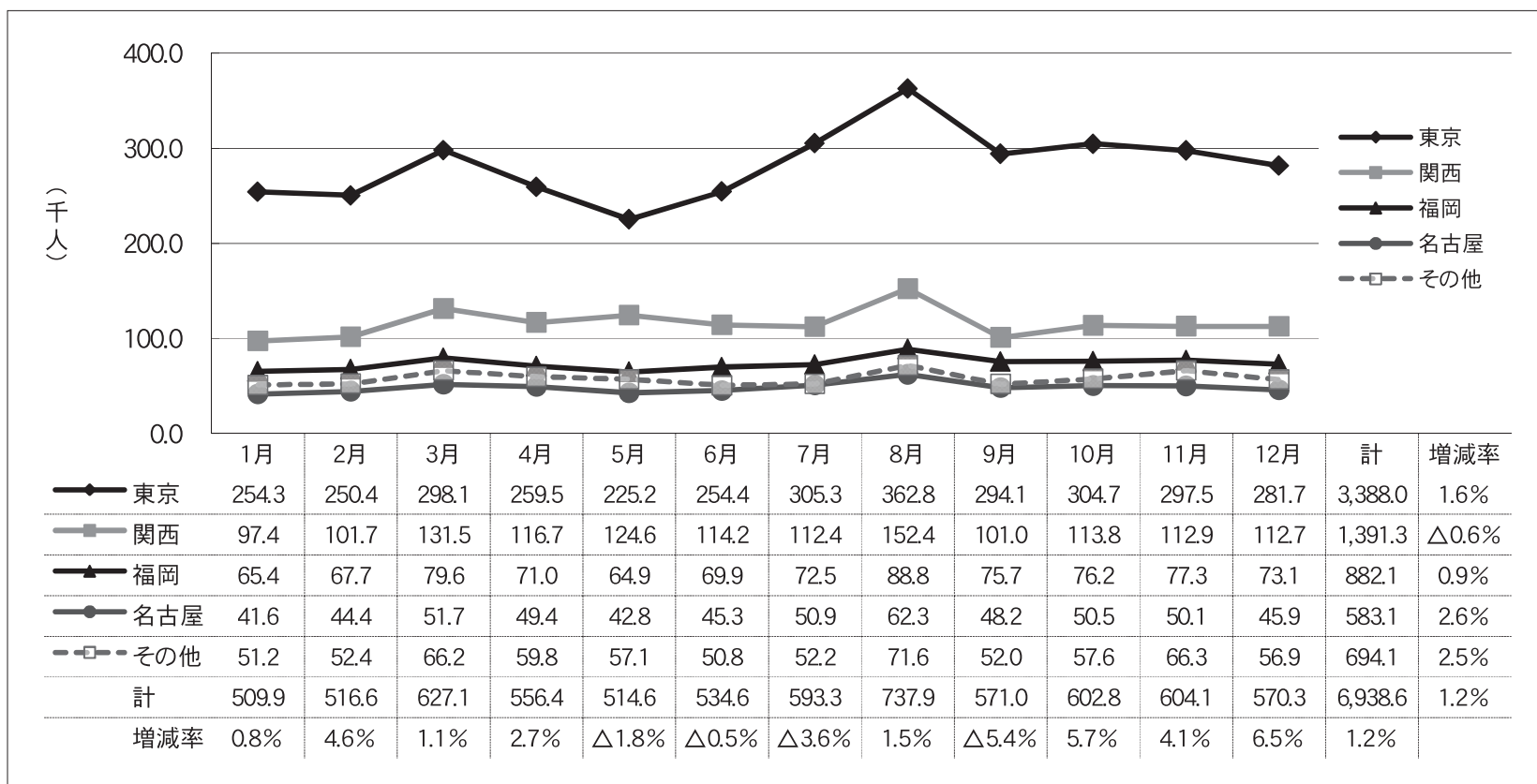
平成30年(暦年)沖縄県入域観光客

過去最高、984万2400人に

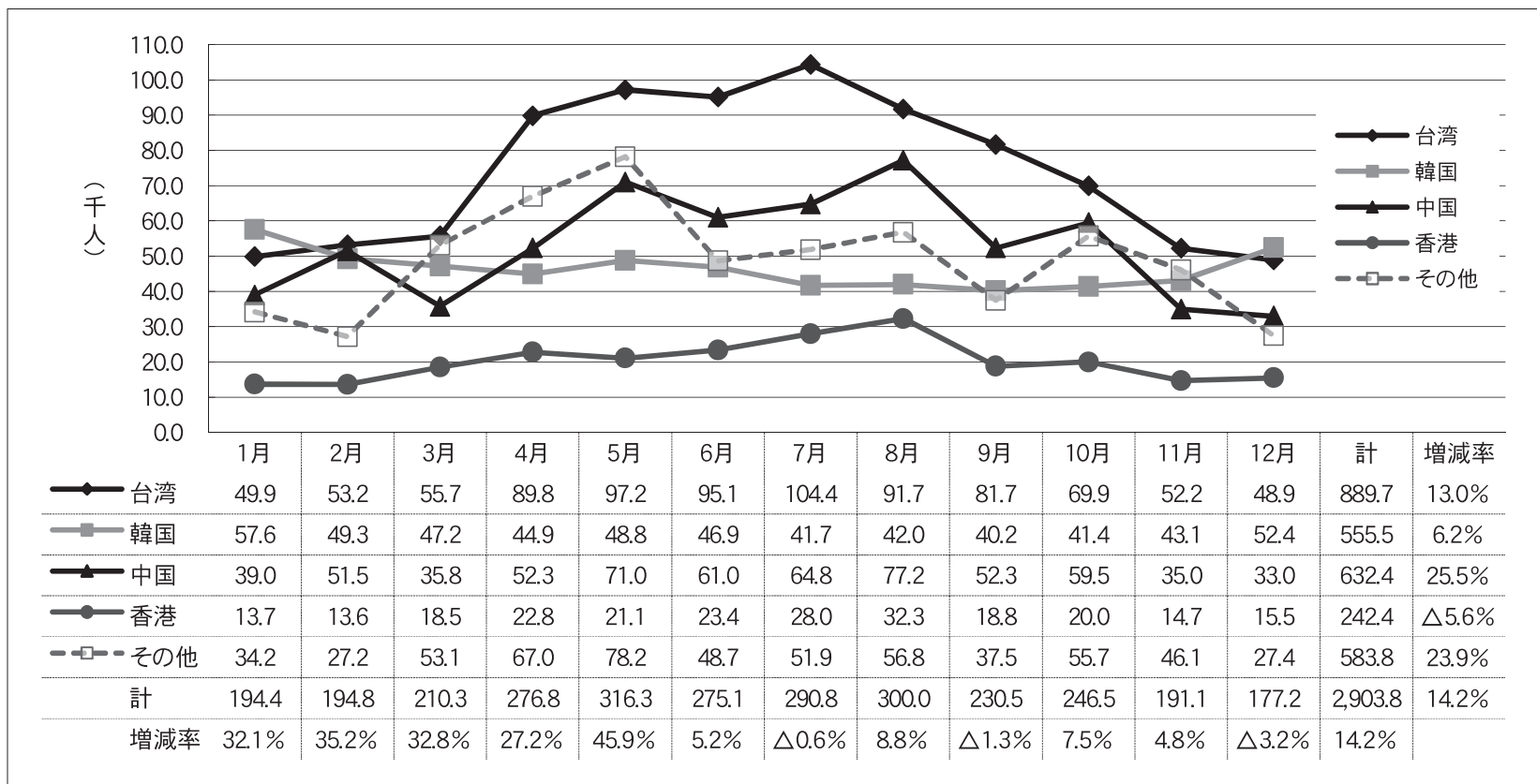
■月別入域観光客数の推移(平成28年～平成30年)



■平成30年(暦年)国内観光客の状況(方面別の月別推移)



■平成30年(暦年)外国人観光客の状況(方面別の月別推移)



調査データ



国際通り 那覇市

沖縄県文化観光ポータル部観光政策課の発表によると、平成30年(暦年)の同県の入域観光客数は984万2400人で、前年比で4.7%増の増加となった。度重なる自然災害(麻しん)発生の影響があったものの、前年に引き続き900万人を記録し、6年連続で過去最高を更新した。同県は増加した要因として「行政や民間が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと」「離島直航による国内航空路線の拡充」「海外船着港の拡充、クルーズ船着港回数の増による外国船の増加」などが考えられるとしている。

前年比4.7%増 6年連続で過去最高更新

国内客1.2%増、外国人客14.2%増

600人で、対前年比で8万4600人、率にして1.2%の増加となり、既存路線の増便があった。これまでの過去最高は平成29年の984万2400人で、前年比で4.7%の増加となった。度重なる自然災害や麻しんの影響があったものの、景気回復基調が継続していることと、那覇の航空路線の拡充が、中国発クルーズ船の寄港回数が増加したこと、前年を上回った。

外国人観光客の動向 影響は麻しんや台風の過去最高の290万3800人を下回った。その他、ビーチアピエ1万1600人、率にして14.2%の増加となった。那覇路線、ジェットスター、中国発クルーズ船の寄港回数の増加など、東南アジア方面で日旅行人気が続いている。

台湾は麻しんや台風の影響を受けたものの、景気回復基調が継続していることと、那覇の航空路線の拡充が、中国発クルーズ船の寄港回数が増加したこと、前年を上回った。